



2023年新年のあいさつ
保存する会代表 梅野敏基

2023年を迎え、挨拶を申し上げます。瀬戸地下軍需工場跡を保存する運動は1990年に始まりました。あの忌まわしい戦争を、決して起こさないうちにも、後世にその記録・遺跡を残そうと取り組みが始まりました。平和な日本を守っていく、戦争をのない世界を望んできましたが、2022年ウクライナにロシアが侵攻し戦争状態となりました。ロシアは自国の軍事作戦で、ロシアの平和と国民生活を守るとしています。侵略戦争を仕掛けるときの常套句です。国民には正しい戦争だとして日本の軍事政権が戦争を始めた時

と似ている気がします。

いま日本の自・公政権は、他国が攻めてくることを前提に、防衛力予算をこれまでの倍にするとしています。そしてその負担を国民に押し付けようとしています。軍事装備についても、他国を攻撃するものとなつていきます。これまでの専守防衛を捨て去つていくかと思えません。

私たちの「会」は、戦争しない国にするための小さな運動です。「平和な日本」「二度と戦争に向かわせない」ためにも、軍事費の増大に対し抵抗していくことが求められます。そのためにも、会の活動に参加していただけるよう今年もよろしく願います。

2023 今年もよろしくお願ひします



瀬戸地下
軍需工場
跡を保存
する会

会報

NO.173
2023年
1月15日

瀬戸市分町04-1
瀬戸市職労組事務所
0561-84-4760
fax 84-4767
郵便振替口座番号
00820-9-105120

連絡先

事務局
梅野
090-3837-7050
寺脇
0572-23-5899
fax 同上
携帯
090-6575-4370

Eメール
tera-m@ob.aitai.ne.jp



おことわり! 会報の映像について

私たちの会報は、「リソグラフ」という学校などで使っている印刷方式です。利点は、安価なことと、手軽にできるという点で他の印刷よりも利便性が高いものです。しかし弱点は、なんと言っても映像の質がよくないということです。白黒であると同時に映像の細かなディテールは潰れてしまい表現できません。

細部や色の再現については、会のホームページ（「瀬戸地下」で検索）上に過去の会報を10号分掲載しておりますのでご参照ください。なお、過去の会報（1号～165号）と他の資料を掲載したDVDを販売しております。1枚500円です。なお証言集+DVDで1000円で販売しております（いずれも送料370円）。ご利用ください。

ありがとうございます
ごございました!

2023年度
瀬戸市
会費およびカンパを頂いた方

尾張旭市	田辺はる子さん	3000円
名古屋市	大里 豊さん	3000円
中津川市	吉川和彦さん	10000円
尾張旭市	鈴木 守さん	2000円
尾張旭市	渡辺直彦さん	2000円
尾張旭市	小嶋俊博さん	2000円
尾張旭市	仁王隆子さん	2000円
尾張旭市	宇佐見美智代さん	2000円
2023年1月10日現在	148名 (+0-0)	

「事務局員になって初めての新年に思うこと」

事務局 大橋正博

私はちょうど一昨年のこの広報を目にしてたのをきっかけに、1月の見学会に参加し、その直後から事務局員として活動させていただいておりま

す。もともと、水野小学校の裏山に軍需地下工場があること自体は知っておりましたが、実際にその現場を初めて見学することによって、戦争という、人類の、国家の、そして一人の人間としても、最も悲惨で最も矛盾に満ちた、歴史的出来事「地球全体においては今、現在もずっと続いてきています」が「現在の出来事」だと改めて知らされておりますが「」に対して、「被害者」と「加害者」の両面を考えざるを得ませんでした。

「被害者」とは、こんな裏山にここまでの地下壕を掘らされて人がいた事実
・「加害者」とは、航空機そのものは実際には完成を見なかったとしても、戦争に荷担し、継続する為の武器の製造に加わっていた人と場所がこんな身近にあったという事実の両面でした。

今後の活動を通して、私なりにこの二つの側面を、縁する皆さん方と共に探求していきたいと思っておりますので、「本年から」も、よろしくお願



「2023年に思う事」

事務局 芝田政春

2022年に起きた事件で思うのは現ロシアが起こしたロシア軍のウクライナ侵攻、21世紀になって核兵器のボタンを押すぞとロシア領への反撃を躊躇させ占領地を増やしていくのをニュースで見ました。プーチンの

戦術の旨さに、恐怖感を感じて、思わず私は今の日本に処分に困っている原子力発電で増え続けている副産物の自然には存在しないプルトニウム94が沢山あるし、核武装をと思ってしまう。岸田首相は、これから5年間で43兆円も国防費増額をするそうです。さらに元首相の安倍さんが宗教団体の旧統一教会の絡み事件で殺害されてしまった事それらの事件で思ったことがあります。国家や宗教団体が専制主義的だと大国や国際的宗教はトップダウンの指示で纏め易く対応が早い利点はあると思われませんが、しかし柔軟で多様な思考に欠け国や教祖の失敗や間違いを俯瞰し第三者的に見直せず寛容に欠ける欠点があると思います。何故か私の父の世代が味わった苦難を思わずにはいられませんでした。

私の父が2002年に亡くなってから、生前、近くを通った時の呟きやニュースで関連した、それに関わって思い出した話など百聞いたうちの十分の一が、この二十年の間に少しずつ片手間に父と五人もいる祖父母たちが居住していた所やわざわざ私に話してくれて訪れた先や事件について、その先の図書館や町や市の史編纂室などで聞いて分かった事や不明な事、父の言った事が本当であった誤りや間違い(わりと近い誤認)、そのわずかな話が繋がって、わりと妥当だと思ふ物語をしてみます。

私の父が、当時の小学校を卒業し近所の石臼屋(米屋)に奉公が決まります。父も父の周りの同級生も奉公の中、二十歳に成れば徴兵検査を受け直ぐに兵隊に成り戦争に行くと思っている軍国少年ばかり。徴兵検査委では父は丙種合格、本人は悲しむが養父は喜んで、同級生は皆、甲種合格。そんな父に養父が慰めた。父が言うには、町内で行われた戦勝記念日や在郷軍人会の談話会で「壇上に並ぶ勲章を付けた人達を見ろ、失明や腕や足の欠損した者、失礼な言い方で片端ばかり、お前は娑婆に生まれた意味があつて、その体(丙種合格)は、使命を果たすために、与えられて大切なので自分勝手に使つてはいかんし、お前の使命は国や他人にたのまれて成す事ではなく、自ずと自分の前に現れ自分から求めていく道だから」と養父に言われたそうです。

父は養父母が何で、そのような事を言うのか、分からない。養父は共產主義者や無政府主義者ではない。町内の建具屋さんです。父の義父母や養父母や生みの親達の出身地やその地で起きた事件を書きます。

父の生みの親 母

愛知県西尾・・・明治四年大浜騒動

父の義父(芝田姓)父が2歳とき養子になるが

9歳で死別)

滋賀県草津・・・

天保十三年野洲栗田甲賀三郡一揆

父の義母(同右)

兵庫県播磨・・・

織田信長軍秀吉に対して

父の養父(近藤姓)父が11歳のときから)

三木城主別所長治反乱

父の養母(同右)

岐阜県海津・・・長島一向一揆

三重県員弁・・・明治九年伊勢暴動

その昔、少数の支配者が決定権を持って、その多くの人達は従うのみ、よって皆、身命を賭けて、自分達の意思を表しました。また多くの先人が死んでいます。直訴は聞いてやるが、首謀者は公開処刑などで。

父の話に戻ります。父は小学校を卒業し米穀店へ奉公に行きます。奉公の年季が明け、名古屋市東区車道に米屋を始めます。しかし昭和十四年(1939)に「未穀配給統制法」が公布され、廃業。精米機など機械や動力は持っていかれて無職になります。愛知県から命令で金属加工の旋盤技術の研修を受けさせられ、主に自由旋盤を担当。大量生産用アレット旋盤は図面から作る物用の治具を制作し、その治具が連続加工を可能にする方法で治具を調整するのが大変だったと言っていました。しかし工場へ勤めて、名古屋の空襲で工場が瓦解し工場疎開する事になり岐阜県土岐市鶴里に行く。しかし工場が完成していないということで、尾張一宮駅から南東へ2.5kmの小学校の校舎に機械を入れて生産開始。しかし、人手不足で困っていると、補充員として当時、日本だった朝鮮から数人の工業学校出の旋盤工員さんが来ました。さらに内地から数名の女工員さんが来てくれたそうです。図面が来て治具を制作し連続加工で大量生産が始まり、部品を予定通り納める事が出来ました。しかし、一宮も空襲を受けます。夜間だったので父も女工員さんも市街に分宿していました。父は映画館の空いている所に夜具を持ち込んで宿にしていたそうです。空襲当時、防空法のきまりで警報でも各持ち場に付いて火災などに対処せよということ。父は工場の人達と小学校の現場へ走り出して一宮市街のはずれに来て照明弾で明るい中、警防団員が立ちまはだかり検閲され父は通され、他の皆は追い返されたそうです。父達は持ち場の小学校の工場へ行くが各地から来ているので一宮

の住民ではないので通しなさいと説明しても、落ち着いた対応ではなく、書類を見せても見る余裕もなく暴力的な対応で正しく職務を行なっていない。無茶苦茶だと思った父は養父母と住んでいた名古屋市東区新出来町で昭和20年5月14日の空襲で罹災し、焼け出された経験から、一宮の防空壕は土を盛った土饅頭だから焼夷弾で蒸し焼き(酸欠)になるから追い返された同僚たちに、防空壕に入らず民家を蹴破って風向きを考え市街を抜け建物のない畑や田圃に逃げると言って別れた。その時、追い返された女工員さんが押し出された父の名を、動揺したのか不安そうに叫んだそうです。(次号へつづく)

私たちは何を恐れているのか?

2023年の新年にあたり

事務局 寺脇正治

2023年の年頭にあたり、日頃思う事を書かせていただきます。

日本人はよく「世間」という言葉を使う。このような言葉はなかなか外国語にはないらしい。近い言葉に「社会」があるが、日本人にとってはこちらよつとじっくりいかなさう。この「世間」が良く出てくるのは、芸能人が何やら「不適切」な言動をしたりしてネットや週刊誌などで「叩かれる」と、記者会見で「世間の皆さまには、大変ご迷惑をお掛けしました」などと決まり文句のように発する。

今ではあまり使わないかもしれないけれど「世間が悪い」とか言う言葉も日本語にはある。

さて前置きが長くなったが、私が今、思っているのは、「学校」という組織である。具体的に言うと、瀬戸市内にある小学校の裏山(ここは小学校の土地ではない)に私たちが保存を進めている

争遺跡群(戦時中の疎開工場の入口遺構5か所、水槽跡、そして陥没跡地等)が1haほどの区域に存在する。標高にして100m〜140m程度、地質は下部に陶器の原料になる粘土層があるまだ固まっていない砂礫層である。ここに、1945年前半に当時の愛知航空機の疎開トンネル工場が建設された。水野地域に全長4kmほどの規模を持ち、当時としては操業が早く航空機の部品を製造していた。戦時中の遺跡が極めて少ない瀬戸市にあって大変貴重な存在である。

そのような歴史的遺産である「生きた教材」が手の届く裏山という願ってもない好条件にある。「学校」が、子どもたちとの接触を最大限に拒否している。子どもだけではなく、見学者に対してと同様である。

もしもこの遺跡が近世以前のものなら、まったく扱いは変わっていただろう。なぜなら対象の遺跡は先の戦争時代のものだと言う一点において、「学校」はその存在を拒否する(恐れている)。その「学校」が恐れる言い訳は「もしも事故(けが等)があったら責任はとれない」ということである。

ここで言う「学校」とはすなわち「校長」と言っても良い。

「自己責任」が叫ばれている昨今にあつて、「学校」に責任をとってもらわなくても結構だと思つてしまふが、当の学校の子供達が事故を起こしたら、学校の責任にもなるかもしれない。それなら、遠足や校外学習などで事故は想定されないのだからか?運動会の組体操や水泳指導などは「極めて危険な」要素をはらんでいるが、中止したということ聞いたことがない。歴史的価値を口では認めながら、その存在を否定しようとする学校とはいったいなんだろうか?

私は12年前に近隣の学校に勤務しており、この戦争遺跡の見学を当時の校長に申し入れたときに言われた言葉を忘れない。

「(戦跡見学は) 政治的である」と。日本において子どもたちの教育は他の国(とくに欧米)に比べて大変偏っていると私は思うが、多くの人々はあまり感じていない。国のありかた(とくに政治・歴史)に関する言動には大きな付度がかげられていくということである。「憲法を考えてはいけない」「平和を訴えてはいけない。」「政権や政治への疑問、批判をしてはいけない。」「戦争とくに日本が行った加害行為について考えてはいけない。」「等々。これらのことを考えるにつけ、日本の教育は「たいへん偏向している」と言わざるを得ない。

北朝鮮の金正恩をトランプ大統領は「ロケットマン」と呼んだ。日本では「ミサイル」と言うが、よく考えてみると、ミサイルは弾頭に爆弾を抱えているものである。人工衛星を打ち上げるのはロケットである。北朝鮮の「ミサイル」については日本のマスコミは喜劇的なほど「脅威を煽る」。

そして昨年はロシアのウクライナ侵攻。ロシア(プーチン)の常軌を逸した行動は、大いに驚愕するものであり、ウクライナ国民の惨劇は計り知れないものだが、少し冷静に考えてみると、大国が小国を蹂躪した事実は枚挙にいとまがない。「イラク」「アフガニスタン」「シリア」等々。ロシアだけでなくアメリカもどれだけ無辜の市民に空爆をしてきたか知れない。テレビのコメンテーターが言っていたが「今まで起こっていた多くの悲劇に対して日本人が関心を持ったことは少なかった。ウクライナだけ関心が高い。これはある意味「人種差別」ではないか」と。これも日本のマスコミのなせるものである。そして今回のロシアの侵攻は軍事力を増強したい現政権にとって願ってもないことなのである。「〇〇が攻めてきたらどうする

んだ!」という殺し文句の前に私達は「なすすべもなく」立ち尽くすだけなのだろうか?今のロシアのウクライナ侵攻が過去の日本の中国侵略によく似ていると言われるが、大きくちがうことはウクライナは独立国であるが、数十年前まではソ連邦内であったという点である。かの日本の中国侵略はソ連という北の脅威に対する防波堤構築の要素が大きいが、しかし、建国以来数千年来の他国である。そんな国に日本は侵略して行ったという点で、今のロシアのウクライナ侵略とはまったく様相が異なっている。ましてや1937年の盧溝橋以降の日本軍の中国侵略は「大義名分」もない軍事行動だった。「暴支膺懲」という言葉が象徴するように、日本国に歯向かう中国を懲らしめるための戦争であり、それによって日本を壊滅迄にらしたため政者たちの責任は計り知れない。いずれにしても軍事力だけの解決方法は極めて危険であることを肝に銘じることが必要であろう。

以上

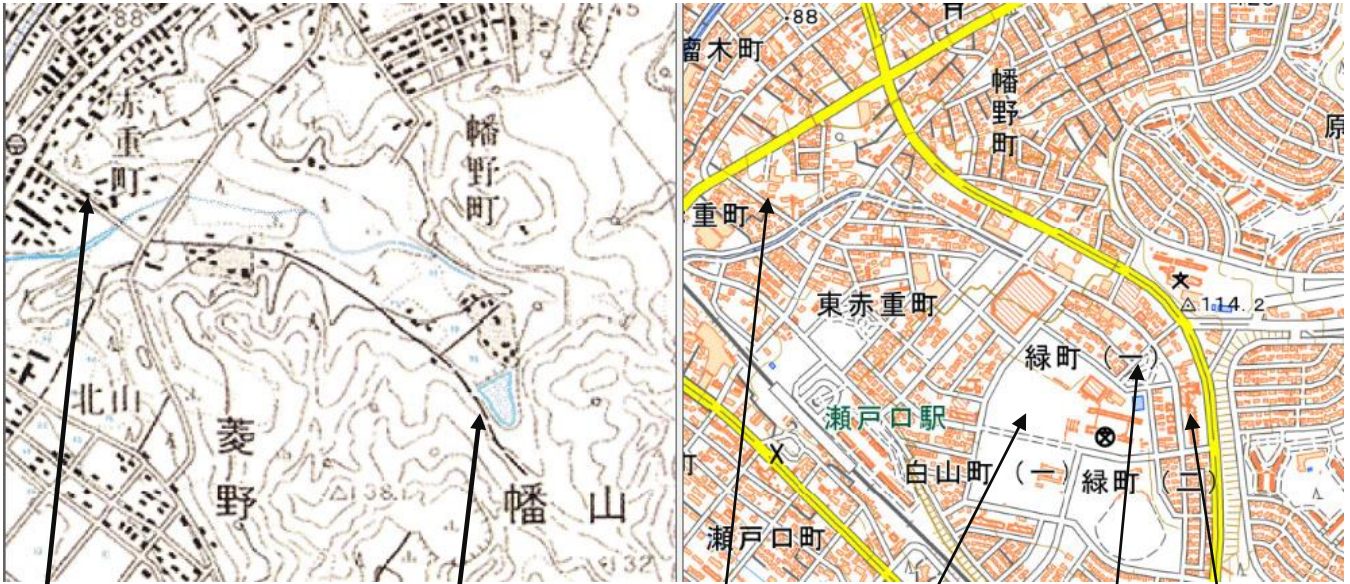


野田茂生 (事務局) さんがラジオサンキュウ (FM84.5) 「せとまちラジオ」のコーナーで紹介しました。ラジオサンキュウのHP、音声ログで聞くことができます。

瀬戸と周辺の戦跡探訪⑤ 愛知航空機瀬戸疎開工場100地区



11月19日(土)
新郷地域交流センター「さとの家」集合で愛知航空機疎開工場百地区の調査を事務局で行いました。参加者は加藤徹、芝田、大橋、寺脇の4名。
参考にしたのは、米軍の図(1947年)(次頁下)と新郷地区の1971年と1995年の地形図(次頁上)です。その中で推定も含めて言えそうなのは、①現緑公園からミノノピアの平坦地は「青池」を埋め立てたもので、緑公園の西斜面は青池の堤②米軍の写真のかまぼこ型工場は遠方の地形、陽光の当たり方を考えるとNO112であろう。なお、今回の当時の百地区の事務所であった東野牧場の門柱は消失したのを確認しました。(寺脇)



百地区の事務所があった東野牧場

青池

東野牧場跡

瀬戸西高校

緑公園

ミソノピア

歴史の証しがまた消えた！



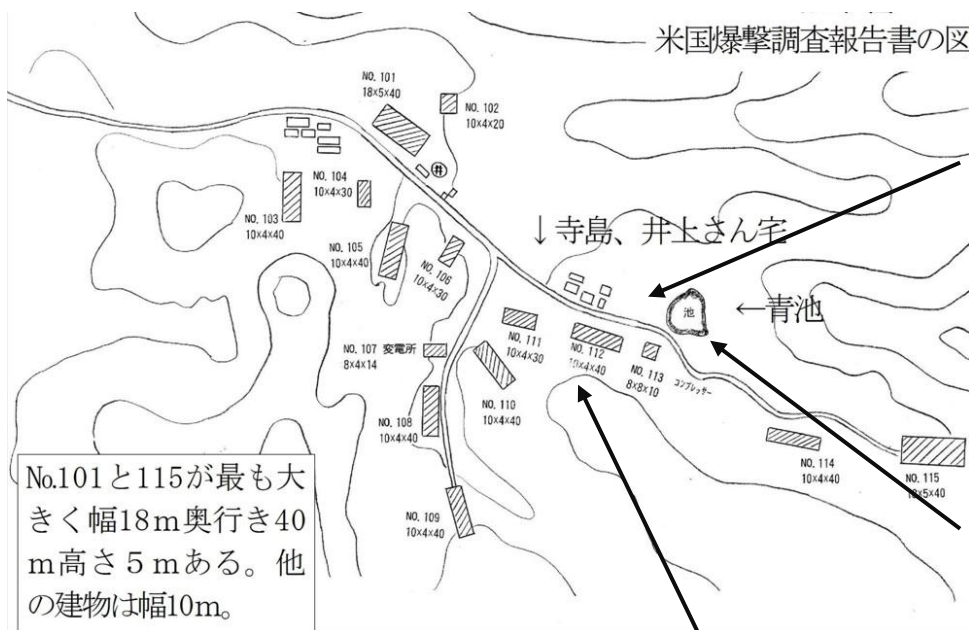
門柱を含めて、事務所跡地が更地になってしまっていました。



昨年まではあった東野牧場の門柱



下図で NO112 (10m×4m×40m) と思われる半地下工場 (米軍爆撃調査団報告書 1947)



No.101と115が最も大きく幅18m奥行き40m高さ5mある。他の建物は幅10m。

当時の事務所があった東野牧場はこの地図の左方向

NO.112 建物



緑公園 (上) とミソノピア (下) 緑公園の南側には瀬戸西高校の法面がある。



ミソノピアは青池の埋め立て地に建設

地域を学び・地域で学ぶ

村瀬紀生さん講演②

8月6日(土)に開かれた保存する会第31回総会の記念講演会での村瀬紀生さんの講演内容を掲載します。

先号よりつづく

とにかく自分たちの好きなことはまずやっていかれないという状況。社会科でも時間数で言うのと、私たちが新任の頃は、週に4時間あったが、それが3時間になり今は2・7時間。それは道徳に時間がとられる、英語に時間とられると、1週間の時間枠が決まっているので、音楽も図工も2時間から1・5時間だというように、少しずつ削られていく。社会科の教科書はどうなっているかというのと、同心円の拡大になっている。子どもは社会認識を育てるために、まず家族からはじまるが、家族・地域・学校・市町村・都道府県・日本・世界というふうには、3年生で市のこと、4年生で都道府県の学習、5年生で産業学習、日本の産業だとか世界の産業だとかでてくる。なぜこんな話をするかという小学校の教科書は、ほとんどが地理。歴史とか政治経済は6年生でやる。私が教員なり立て

のころは、歴史が出てきて、次が政治、最後が世界地理。今は、政治が一番。政治をやっている、歴史、最後に地理。6年生をやると卒業式が間近で私学の受験がある者もいる。それで6年生の世界地理は、だいたい図書館に行つて調べさせる。そんな難しい世界情勢、ウクライナとかロシアを調べろなんて言つても先生も知らない子どもたちも分からない。

そういう風にして教材が作られている。地域を学習するにはどのようなものを取り上げて行けばいいのか？

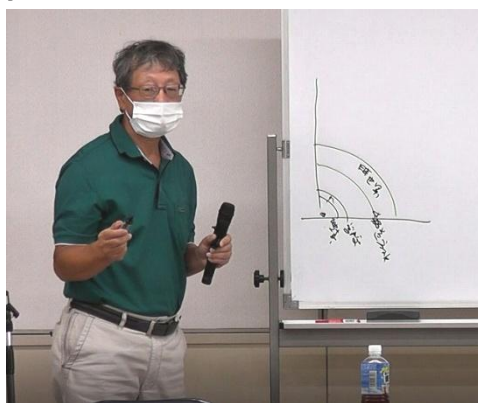
先程も述べたが、教育課程はあるが地域の実態にほぼ即していない。例えば、水産業の学習に見学漁港へ行つてみようと思つてもできない。これは写真か絵で代える。動画もある。あるとき「先生、海に行きたいな」と言う声が出て、遠足、社会見学を日間賀島しかし、そうすると5年生だから、工業の学習と言つたら普通はトヨタ。社会見学は1回しか行けないのでトヨタが行けなくなる。そうしたらどうするか、発想の転換をすれば授業なんてどうにでもなる。そのとき、トヨタと言つたら、長久手に博物館があるので、そこへ行つた。それとか地域の町工場にお話を聞くためにメッキ工場なども訪問した。

そして日間賀島に行った。最初、行つたときは地引網。地引網をやつたら漁師さんが、そのころ1本、十万円という。それに地引網をしても当日そんなに魚が入る訳がない。地引網も上手に引かないと、魚が跳んでしまう。漁師さん

のところには朝早く行かないといけないので、お母さん方に弁当作りに面倒をかけるので「おにぎりだけでいいです」と連絡した。漁師さんに言つて、猟師鍋を作つてくれと言つたら「予算が合わない」。交渉のときに10万と言われて「金がないんですよ」と言いつたら、フェリーに乗れ、あれだったら高速船より30円安い。校長は日間賀島に行くことには難色をしめしたが、校長がいらない修学旅行に合わせて実施した。結局、7万5千円に値引きしてもらった。

2回目は4年生で島めぐりをしたとき、大学の教授にお願いして、班単位で活動することにした。社会科の副読本に「日間賀島」が「タコの島」とあったので蛸を食べさせないといけないと思つたが金がないので漁業組合長に交渉した。蛸の脚を一本ずつ頂いた。30年間いろいろ面白い話はあるが、とにかく授業はそういう風にして教科書の実態に合わないところは地域に出て行って何を子どもに学ばせるかということが大切。子どもたちにどういうように接点を創つたらいいかということで、いろいろな取り組みをして新しい企画を考えると、仲間内でも、「そんなところに行くんですか？」と言う声もあったが何回もやつて研究会がらみで大学でも話をさせていたかどうかにもなつてくると、出張黒板に「〇〇講師」と書かれる。周りの者もいろいろ関心を持つようになり「今年のスペシャル社会は何をするんですか」と聞かれるようになってくる。

研究会では30本ほど論文を書いた。資料にあ



する会」がいろいろ調べたことも学習発表会の話題にいられた。

次に歴史教材の関わり方について。社会科の学習時間が削減された。歴史の流れを教えていくのに週に4時間だったのが2.7時間になった。ポイントしかやれない。例えば大仏を教える。聖徳太子を教える。しかしその移り変わりは何だったのかということが、まったくだめ。だから大化の改新、建武の親政、幕末なんかはまったくうまくつながらない。尊王攘夷とか大政奉還とか言っても子どもたちは、まったく分からない。授業数が少なくなると時代の特別な項目だけを取り上げて学習が展開される。これが起きたからこうなった。日露戦争のところなど、それになった経過などが紹介されずに、よく出て来る日露戦争の始まりの中国の遼東半島の戦いを見て「どう思うか」と子どもたちに問いかけるが、その前に時代背景

る「学習劇」は私の原点でもある。これも父母からは「なんで、あんなことやるんだ」と言われたが平和を考える上で事実を伝えることが基本ではないかというところで「保存

を教えないといけないのに、今の先生はピンとこない。時代背景をどうとらえるか。今日の私の話にも関係するが、学習に原因を「なぜ」と追究することがなくなってきた。それを考える時間が今の教育になくなってきた。

昨年水野小学校で「水野の宝」という3年生の授業に講師として呼ばれた。川の探検をするとか、企業団地に行くとかに、講師として頼まれた。私は「ぼくたちの町にも戦争があった」ということで地下工場跡のことを扱った。頼まれたのは3日前。おまけに「よぶんなことをしやべらないで」と言われたけど、学校が困っているみたいなので出かけた。そうしたら、今の子はタブレットを持っていて。現地に行ったら地下工場跡を見せようとしたら、トラロープがはってある。子どもたちは「入ってはいけないよ」と言う。なぜ？と問うと「ぼくたちは行ってはいけないと言われてる」と言ったが、「今日はおじさんがいるから大丈夫。ちょっとだけ見に行こう」と言ってみせたが、「うーん」という感じ。担当したのは5人。それも2時間。担当の先生は違うところに行っている。今日、会ったばかりの子たちに2時間つきあった。そういう風で現地を見に行ったら、子どもたちはタブレットばかり見ている。心配になって「今の話、分かる？」と近づいたら後ろに下がる。「なんで下がるの？」と聞くと「おじさんが映らないから」と言っても私も納得したが、このようにこちらが一生懸命問いかけても、反応がない。後で担当の先生に聞いたら、「こんなもんだ」

と言われた。そして「後でまとめるから話を聞いていなくても大丈夫ですよ」と言われた。これではいけないと思って、時代背景だけは押さえておきたいと思い、資料を作って、もう一度行った。2回目で給食の後ということで5人中一人は寝てしまった。そういう状況。
78年前の水野は瀬戸市ではない。戦争中は水野村。

話は飛ぶが、昔、3年生で「今と昔のくらし」という授業があつて足助の方に行つたことがあるが、それが今は、なくなった。「市のうつりかわり」という内容になった。私は、文科省は何を考えているのかと疑問に思った。「今と昔のくらし」ならおじいちゃんやおばあちゃんのところに行つて話を聞くことができる。昔の道具はこういう風に作つたとか物事を考えたりすることができ、人との交流ができるが「市のうつりかわり」では動画を流しておけばいい。おじいさんおばあさんはいらない。文科省はそういう人達が必要ではないと考えてると思う。なんだこの教材。「市のうつりかわり」も良いかもしれないが、ただ映像を見せているだけでは教育にならない。人と人が交わっているなことを聞いて五感を通して、いろんなことを考えるのが教育と思つたときに、この教材の組み方はまずいと思つた。
これは大学の先生でも作れる。しかし「今と昔」では地域性があり地域で起きた現状などを把握するには、やはり地元の人と話をしなければいけない。

次号へつづく

写真で観る晴嵐 28号機修復の全貌 第6話

愛知航空機研究家・渡辺哲国

6. M6A1 晴嵐の搭載兵器詳細

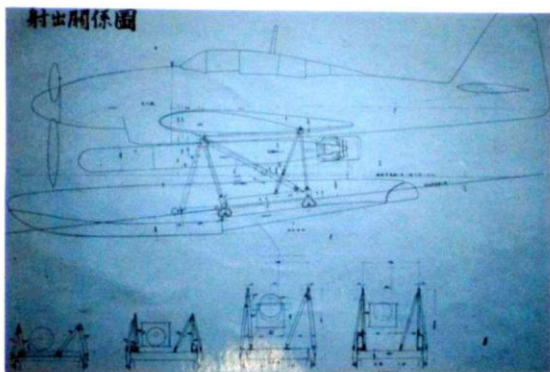
昭和 19 年 5 月に調査した晴嵐の搭載兵器一覧表が現存している。兵器と言っても銃器や爆弾だけでなく、装備類も兵器として扱われていた。内容は、

- ・爆撃 ・雷撃 ・射撃 ・通信 ・航法
- ・保安 ・補機 ・計器 ・その他。

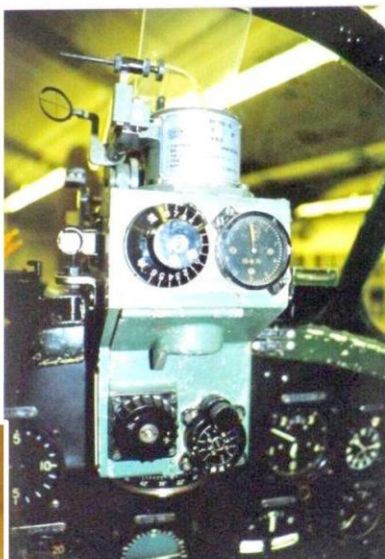
注1)この表は晴嵐28号機の修復に大変役立った。
 注2)海軍機の計器装備については計器装備標準に加え、零戦、烈風、紫電改を含め31機種を網羅したDVDを販売しているので、関心のある方は、会のHP「愛航研究 DVD 格納庫へようこそ」をご覧ください。
 次号へつづく

名 称	数	一個重量	備考
80番爆弾(九九式四試改連珠)	1	80.0	
25番爆弾(九九式陸九九式通)	1	26.2	
小型爆弾各種	2		
二式一号射撃照準器	1		増設
零式一号射撃照準器	1		
九九式小型爆弾投下器	2	2.8	
九九式一号爆撃照準器(型成立)	1	17.1	
九九式中型爆撃照準器	1		
九九式魚雷改二	1	8.40	
九九式大型爆撃機投下器一	1	6.0	
二式一号雷撃照準器	1		
射撃			
徹撃二式一号徹撃機			
全 弾 (300発分)			
九九式一号無線電信機	1		
一式一号無線機投下器改二	1	25.5	
九九式一号編隊照準器一型	1	8.6	増設
零式編隊目標機一型	8	0.9	(増設)
零式編隊目標機一型	5	1.67	
編隊目標機一型	1	1.3	
偵察器具袋	1	2.5	増設
小型電氣信号灯一型	1	0.9	
信号機一型	1	1.3	
全 弾	10	0.09	増設
射撃照準器一型	1	1.33	
九九式落傘二型	1	8.5	
八九式落傘二型改二	1	8.7	
救命具二型	1	14.0	
酸素環	3	6.4	
酸素環各種	2	3.4	
炭酸ガス環四型改	2	6.5	
充電用充電機一型	1	20.8	増設
真空ポンプ一型	1	2.25	
圧縮ポンプ一型			
汲排水ポンプ一型	1	2.9	
電熱ポンプ一型	1		
二式一号電燈二型	1	3.4	
名 称	数	一個重量	備考
水平儀一型	1	1.4	
定針儀一型	1	1.75	
方位計一型	1	0.65	
速度計二型改二	2	0.4	
電熱ポンプ一型	1	0.5	
精密高度計一型	2	0.68	
昇降度計一型	1	0.89	
零式高度計針一型改一	1		
燃圧計二型	1		
油圧計一型	1	0.16	
油温計一型	1	0.57	
水温計	1		
真空計	1		
前後傾斜計一型	1	0.26	
電圧同種速度計一型			
投入圧力計一型	1	0.23	
排気温度計一型	1	7.4	
航路時計	1	0.34	
時計計	1	0.085	
荷重計二型	1	0.16	
電熱式高度計一型	1	3.26	

①晴嵐搭載兵器一覧表



②晴嵐射出関係図・九一式魚雷改三



③三式射爆照準器
(改二→改三 設計変更)



④二式十三耗旋回銃



⑤複製された信号拳銃一型



⑥ 操縦席計器配置



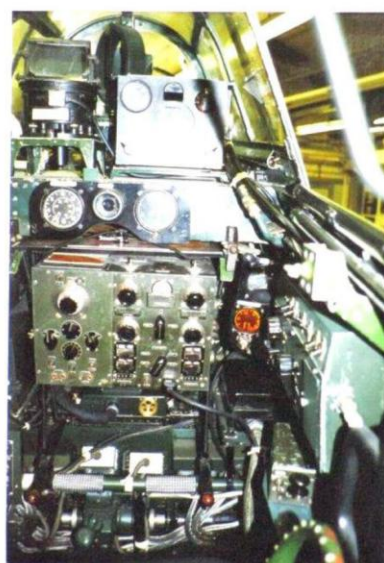
⑦ 操縦席計器配置



⑧ 操縦席計器配置



⑨ 偵察席計器配置



⑩ 偵察席計器配置



⑪ 偵察席計器配置

水野街道



水野小学校前にある陶板の古地図

ご案内

水野地理歴史研究会主催

講演 「水野街道の今と昔」

講師 村瀬紀生(地理教育研究会評議員)

2月4日(土) 10:00~12:00

瀬戸市水野交流センター第5集会室(入場無料)



12月10日現地見学会に向けて事務局7名で現地整備を行いました。



愛知航空機瀬戸地下工場跡

現地見学会

2023年

1月29日(日) 10時

水野地域交流センター(旧水野公民館)

2F 第5集会室集合

10時~11時

案内に先だつて「学習会」を行います。

11時~12時 現地見学

足場が悪いので、はきなれた靴でお願いします。なお雨天でも「学習会」は行います。マスクのご用意をお願いします。



私の町の戦争の記憶

盛況だった東海交流会



12月11日(日)第38回戦災・空襲を記録する会東海交流会がピースあいちで行われました。

当日の参加は会場24名、ズーム19名で合計43名でした。参加団体は25団体でした。神奈川・静岡・愛知・岐阜・三重・奈良・京都・福井・富山9県から参加がありました。東海交流会として「陸軍兵器補給廠」について共同調査をしていくことになりました。

編集後記

ロシアによるウクライナ侵攻が始まって、もうすぐ1年になるかとしています。何をどう考えれば良いのか難しいことは多いですが、この期に応じて軍事費を2倍にしようとする動きが気になります。少子高齢化、低賃金、食料自給率最悪等々、足元から出ている火を消すのが先決のような気がします。みなさまのご意見をお待ちしています。

2023年1月10日(T)